

授業科目 解剖学実習Ⅰ

【担当教員名】		対象学年	1	対象学科	理学・作業
西 野 幾 子、山 口 康 昭 山 田 まりえ		開講時期	前期	必修・選択	必修
		単位数	1	時間数	30
【概要・一般目標：G10】 交連骨格標本、分離骨標本を用いて、人体、特に骨格系を立体的に理解する。 人体の正常な構造と機能を理解するために生体組織の代表例を微細構造学的に観察し、それらを理解する。					
【学習目標・行動目標：SB0】 1. 人体の代表的な組織・器官の光学顕微鏡的な微細構造を理解し、その特徴を説明できる。 2. 全身の個々の骨を見分け、身体どこにどのような方向に位置しているかを説明できる。 3. 骨の全体の形・概観・大きさ・重さ・質感をよく理解する。 4. 骨の区分（体、端、縁、面など）を理解する。 5. 骨の各部分の形（突出物、くぼみ、孔など）を概説できる。 6. 隣接する骨との連結を観察する。					
回数	授業計画・学習の主題			SB0 番号	学習方法・学習課題 備考・担当教員
1	解剖学実習Ⅰの概要とオリエンテーション				実習
2	組織学実習：顕微鏡を用いた人体組織標本の観察とスケッチ			1	実習
3	組織学実習：顕微鏡を用いた人体組織標本の観察とスケッチ			1	実習
4	組織学実習：顕微鏡を用いた人体組織標本の観察とスケッチ			1	実習
5	組織学実習：顕微鏡を用いた人体組織標本の観察とスケッチ			1	実習
6	組織学実習：顕微鏡を用いた人体組織標本の観察とスケッチ			1	実習
7	組織学実習：顕微鏡を用いた人体組織標本の観察とスケッチ			1	実習
8	骨学実習：交連骨格標本、分離骨標本を用いた主たる骨の観察とスケッチ			2～6	実習
9	骨学実習：交連骨格標本、分離骨標本を用いた主たる骨の観察とスケッチ			2～6	実習
10	骨学実習：交連骨格標本、分離骨標本を用いた主たる骨の観察とスケッチ			2～6	実習
11	骨学実習：交連骨格標本、分離骨標本を用いた主たる骨の観察とスケッチ			2～6	実習
12	骨学実習：交連骨格標本、分離骨標本を用いた主たる骨の観察とスケッチ			2～6	実習
13	骨学実習：交連骨格標本、分離骨標本を用いた主たる骨の観察とスケッチ			2～6	実習
14	骨学実習：交連骨格標本、分離骨標本を用いた主たる骨の観察とスケッチ			2～6	実習
15	骨学実習：交連骨格標本、分離骨標本を用いた主たる骨の観察とスケッチ			2～6	実習
【使用図書】		<書名>	<著者名>	<発行所>	<発行年・価格 他>
教科書 (必ず購入する書籍)		理学療法士・作業療法士・言語聴覚士のための解剖学	渡辺正仁	廣川書店	2000・5,500円
参考書		線描 骨学実習	千葉正司	考古堂	2001・3,500円
その他の資料		実習書の配布			
【評価方法】		【履修上の留意点】			
実習態度、出席状況、スケッチブック、筆記試験の総合評価		実習室では白衣を着用すること。標本の数により全員が同じ順序で実習することは不可能なので、説明をよく聞くこと。 スケッチブック（指定）と色鉛筆が必要。 実習はやり直しができないので、欠席をしないこと。			